

国際交流員がモンゴルを紹介！

連載

ジャルガルの

ほのぼの日記

第44回 モンゴルの伝統的な習慣子供の断髪式



皆さん、サエンバエノー。心地よい秋風が吹き抜ける秋天の候、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。母国モンゴルでは平均より暖かく穏やかな秋日が多いそうですが、先月早々に初雪が降り冬の訪れも近いでしょう。

冬ももうすぐなので、少し寒くなってきたら小さい頃のことをよく思い出します。冬休みに田舎のおじさんの家によく行きました。雪が降った時に行くと、真っ白な雪で染められた草原の中でポツンと一軒ゲルがマツシユルームのように見えました。おばちゃんが毎朝、誰よりも早く起きてストーブに薪を入れ、火を起すとゲルの中はあつという間に暖かくなります。アパート生活になれている都会っ子にはゲルは寒いだろうねと言いながら、いつも朝早

くから暖かくしてくれました。ウランバートル市内のセントラルヒートニングのあるアパートと違ってモンゴルのゲルは日本の家と似ています。暖房やストーブで家を暖め、自分たちで温度調整をします。今では自分がおばあちゃんと同じ立場となり、子供たちを朝起こす前に暖房を入れていきます。冬の話は少し早いですが、いずれ帰国すればきっと伊豆の冬は恋しくなる気がします。

さて11月と言えば七五三ですね。モンゴルにも伝統的な習慣のひとつとして子どもの健やかな成長や長生きを願う「断髪式」があります。断髪式の日までは男の子も女の子も髪を一度も切りません。

男の子は数え歳で3歳か5歳の秋、女の子は数え歳で2歳か4歳の春に断髪式を行います。断髪式の日時や

髪に最初に手をつける人を、子どもの生まれた十二支で相性の良い干支を選び、親戚や友達を招きます。

主役の子どもに民族衣装を着せ、最初に手をつける人が木材の偽のナイフで髪を撫でてからハサミで一束を切ります。切った髪の毛をハダグ（儀礼用の絹布）に包みながら祝福の言葉を言い、その子に手土産を用意したお札を渡します。この後、お客さんが年齢順に髪を切っていきます。切り終わったら、丸坊主になります。断髪式が終わると、髪は自分の好きな時に切れるようになります。

私も私の子どもも丸坊主になりました。女の子は4歳だと物事がわかる丸坊主にするのがかわいそうだったので2歳の時に断髪式を行いました。このようにアジアの国々には同じような意味合いの伝統行事がたくさんありますね。

それでは、バヤルタエ。サエンバエノーはモンゴル語でこんにちは、バヤルタエはさよならという意味です。

問 市長公室
055(948)1431



▲モンゴルの断髪式の様子

モンゴルクイズ（答え）

モンゴル国代表選手がパラリンピックで初めて金メダルを獲得した競技はどれでしょう？

①パラパワーリフティング、②柔道、③レスリング、④アーチェリー

正解は、④のアーチェリーでした。皆さんわかりましたか？



「暮らしのレスキューサービスに関するトラブルが増加」

あなたも狙われるかも！悪質商法に「用心」

近年、水道やトイレなどのチラシに「見積り無料・作業料は数千円」とあったため、その事業者が電話をして自宅に訪問してもらったところ、数十万円の工事の勧誘を受け、断り切れずに契約に至るといふ事案が発生しています。悪質な事例では、高額な工事が必要であるかのように虚偽の説明をしたり、クーリング・オフをしたところ、「うちの契約はクーリング・オフはできない」（※）、「もう工事の資材の発注をしたので、材料費だけは負担してもらう」などと、クーリング・オフの妨害をするケースもみられるようです。

もしトラブルに遭ったら、すぐに消費者センターに連絡してください。

※消費者が契約をするために



©Shigeki Yamada

（文と絵） 司法書士 山田茂樹
事業者に来訪の要請をした場合は、クーリング・オフの規定は適用除外になると規定されています。（特商法26条6項1号）ただし、本事例のように「数千円」の作業をお願いするつもりが、訪問販売で勧誘を受けた契約が「数十万円」であったような場合、消費者は、「数十万円」の契約をするつもりで来訪の要請をしたわけではないので、この適用除外には該当せず、クーリング・オフの行使は可能です。

【消費生活相談】 伊豆の国市役所伊豆長岡庁舎
相談日：毎週月～金曜日、9：00～16：00
（12：00～13：00、年末年始・祝日は除く）
※相談員による相談は月・水・金曜日
問 伊豆の国市消費生活センター ☎055-948-2901

伊豆市役所（伊豆市小立野）
相談日：毎週火～木曜日、8：30～17：15
（12：00～13：00、年末年始・祝日は除く）
問 伊豆市消費生活センター ☎0558-72-9858

市民の「チカラ」を紹介します！

～市民活動のススメ～【第1回】

伝え合いたい 命の大切さ 自然の素晴らしさ
YAMANeko楽舎

代表 市川幸子 ☎0558-88-9785

どのような活動をしていますか？

子どもたちに自然の豊かさや素晴らしさを楽しみながら感じて欲しいという願いから自然素材のクラフトワークショップや講座を実施しています。また、東日本大震災後、避難生活を続ける福島の子どもたちを応援するため、被災地の支援や現状を伝える活動を9年行っています。

活動への思いや心掛けていることは？

福島の子どもたちとの活動では、さまざまな思いやたくさんのありがとうといった声に出会います。私たちが集めているのは、人が人を大切に思う気持ちだと思っています。協力いただける人々の温かい思いをこれからも福島の皆さんに伝えていきます。また、東日本大震災の出前講座の中では、事実を伝えることで、命の大

切さや絆の意味、防災の必要性を感じてほしいと考えています。

読者へのメッセージ

今年の3月に「伊豆の真ん中から東北に送ろう 追悼・エール・絆の灯」を開催しました。市内の小中学校、高校を中心に3,110個のキャンドルにメッセージを込め、火を灯し、東北にエールを送りました。命の大切さや自然の素晴らしさをこれからも多くの人に伝えていきたいと思っています。



▲「伊豆の真ん中から東北に送ろう 追悼・エール・絆の灯」の様子